

中国 中国幼児教育保育研修

学生氏名	寺田 朱里さん
所属学部	教育学部 児童教育学科 保育コース
参加学年	3年次
滞在期間	2025年3月9日～16日
滞在方法	ホテル



自分の目で見て確かめてきたこと

福山市立大学と提携を結ぶ南京の大学、中国南京晓庄学院では、キャンパスツアー、授業体験、座談会が行われた。15学部あり、敷地もとても広いため棟の移動にはレンタル自転車やバイクを使用している様子だった。敷地内にある寮で生活する学生が多く、キャンパスツアーをしてくれた学生も寮生だった。食堂内には中国で人気のドリンクチェーン店もあり、私から見れば大学の敷地に家も道路もショップもある、ちょっとした街のように見えた。

授業体験で私は『幼児期の社会教育と活動指導』を受講させていただいた。授業形式は、先生がSNSのショート動画にアップされている様々な幼児の様子を撮影した動画を流し、それに対してグループワークで討論した内容を一人が代表して発表する。状況を分析しながら子どもに対する対応を検討していくというものだった。学生はグループごとに固まって円になるように向き合って座っていることから、グループワークがメインの授業だと分かった。最初は言語が分からず授業の雰囲気だけを楽しんでいたが、気を利かせてくださった先生や学生の皆さんが時折英語を織り交ぜてくれたり、翻訳アプリを駆使してどうにか議論内容を伝えようとしてくれたりした。そのおかげで「子ども同士の争いにどう対処していくか」という議論には私たちも参加して検討することができた。

学生の様子としては、私たち日本人学生にもどうにか参加させようという努力してくれたことも含め、授業に前向きで意欲的な印象だった。その後の座談会で、国内が就職難の状況で、実際に現





場の先生になるには相当苦勞するとおっしゃっていた。普段の大学のテストからかなりの量勉強することが求められるようで、授業に意欲的なのも就職のハードルの高さが要因の一つであると考えられる。座談会で学生から出た質問内容に関しても「日本のインクルーシブ教育に関する授業は必修なのか」「心理学にも種類があるがどういった内容の心理学を学ぶか」など、内容に質の高さを感じた。様々な場面で垣間見られた、中国の学生の「学びをより深く追求しようとする姿勢」が、中国の教育現場の向上心に繋がっているのか

もしれない。教師や教育現場の評価が重要視される社会構造であるため、出会った学生の皆さんのように各々自分なりの探究心を持っている方々こそが、見学させていただいた教育現場のような子どもの興味関心を引き出せる新たな環境を創り出し、今後も教育の質を高めていくのだろう。同じ教育学部生として刺激をもらう時間となった。

今回7泊8日の中国滞在中で、実際に自分の目で確かめることの重要性を感じた。それは豊富な遊びの資源を駆使していた保育・教育現場でも言えることであり、私の海外での経験に関しても言えることだった。生活場面の中でも、最初現地に着いたばかりの頃は、正直お店の店員さんなどに対して「不愛想な態度だけど怒らせたのかな…」と感じる節もあった。注文の仕方に戸惑ったり、ホテルで鍵を中に置いたまま外に出てしまったりと汗が出てくるハプニングもあった。困った時は言語が通じないなりにジェスチャーや拙い英語で何とか相手に伝えようと表現する。すると向こう側も一生懸命耳を傾けて理解しようとしてくれて、私たちを何度も助けて下さった。むしろ愛想の良い日本よりも、注文の流れを付きっきりで教えてくださったり、ホテルの鍵が使えるか確認しにきてくださったりと最後まで手厚く親切だった。全体的な印象として中国の方々は、店員さんとお客さんが談笑していたり、公共のスペースで地域の人が集まって運動していたり、初対面の人との関わりでも積極的な気がした。もしかしたら日本人が特に照れ屋さんだけかもしれない。一歩外に出てみることで、逆に日本が見えてくるということもあった。

何事も表面的に判断してはいけないと思ったと同時に、歩み寄る気持ちや相手に伝えようとする表現力を兼ね備えていることが重要だと実感した。これらは子どもの中に育ててほしい心や力でもあるが、私自身も磨き続けていきたいと強く感じた。今回の研修はとても貴重な機会であり、楽しかった思い出も大変だった思い出も全て人生経験であり、少しはたくましくなったと思う。

